

防災とセットで取り組む減災

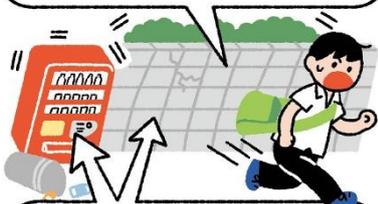
8月8日日向灘でマグニチュード7.1の地震がおきました。大分市でも震度4の地震がおき、南海トラフ地震臨時情報「巨大地震注意」と1週間呼びかけがありました。改めて、防災について考えるきっかけになったのではないのでしょうか。

9月1日は「防災の日」。身の回りで起こりうる災害を可能な限り未然に防ぐため、さまざまな形で啓発が行われます。一方、災害による被害をある程度、あらかじめ想定した上で低減させていこうとする考え方として「減災」があります。

とくに地震や竜巻、洪水などの自然災害は、いつ・どこで起こるのか、ある程度の予測はできてもはっきりとは分からず、予測は難しいもの。そこで、こうした特性を踏まえてさまざまな研究や調査、分析などをもとに対策を立て、被害を最小限にとどめることを目的とした取り組みが必要になるのです。



登下校中、地震が起きたら



塀や自動販売機などから離れよう。

減災は1995年の阪神・淡路大震災の後、被災者の体験から生まれた概念であるといわれています。その後も、2011年の東日本大震災など、私たちは数々の災害を経験してきました。『起こさない』ための努力、そして、起きてしまっても『なるべく被害を少なくする』ための努力、そして、起きてしまっても『なるべく被害を少なくする』ための努力・・・災害対策として、この2つをセットで考え、取り組んでいくことが大切なのです。

知っておくと便利 防災豆知識

▶ **非常口の表示には2種類ある**

非常口マークには、背景が緑色のマークと白色のマークがあります。緑色は「ここが非常口だよ」のマークで、白色は「矢印の方向に非常口があるよ」のマーク。いざというときに間違えないように覚えておきましょう。

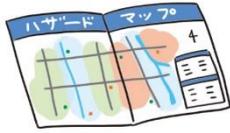
▶ **ホイッスルが命を救う**

動けなくなったときにずっと声が出せるとは限りません。ホイッスルで居場所を伝えられれば、助けてもらえる確率が上がります。

▶ **懐中電灯とペットボトルが照明に**

懐中電灯は部屋の照明のように広い範囲を照らすのは苦手。懐中電灯を上向きに置いて、その上に水の入ったペットボトルを置くと光が乱反射して広い範囲を照らしてくれます。

知ってる？ハザードマップ



「ハザードマップ」という言葉を知っていますか？

「ハザードマップ」とは、台風や地震など自然災害による被害を軽減したり、防災想定区域や避難場所・避難経路などを表示した地図です。

たとえば、台風や大雨の影響で川が氾濫したり、浸水したりする恐れがある地域では、水害のリスクや避難場所などの情報が載っています。そのほか、土砂崩れや津波などのハザードマップには、注意すべき場所や避難訓練などの情報があります。

「天災は忘れたころにやってくる」という言葉もあります。いざというとき、冷静に行動できるように、自治体のホームページや広報などで、自分の住む地域のハザードマップを確認しておきましょう。



2枚の絵を見比べて7つのまちがいを探そう！



まちがいがさがしの答え

左奥の男子の口/奥の女子の襟(フード)/右奥の男子の右手/左手前の男子のボルトホルダー
 手前の中央の帽子の女子のスカート/右手前の女子のズボン/手前の女子二人の間の小石